

エリアコミュニティに参加して、
地域で横のつながりを広げてみませんか？

全国
7エリアで
活動中

エリアコミュニティとは？

ICTの活用方法や協働学習について
シェア、相談し合うエリア別のコミュ
ニティです。

同じエリア内の他校の先生と出会い、実践
事例を直接聞いたり紹介したりするだけで
なく、大学教授など有識者の先生にも参加
いただき、より本質的な議論を深める機会
などを提供しています。



現在全国7カ所で展開中！
地域コミュニティ

弊社が主導するエリアコミュニティの枠
を超え、いま、先生方が自ら「企画・集客」
を担う自主型のコミュニティが各地で盛
り上がりを見せています。現場の先生方
の「知りたい・伝えたい」という熱量で運
営されるこの場所は、まさに地域の教育
現場を支えるプラットフォーム。先生方
の日々の試行錯誤が、そのまま地域の力へ
と変わっています。



参加費無料
初参加大歓迎！

ご興味のある先生方、ぜひご参加ください！▶

先生方のお声をお寄せください！

ミライシード「活用事例
BOOK」アンケート
こちらから3分で完了！

2026年度春版
ミライシード活用事例BOOK

2026年5月1日発行
発行所：(株)ベネッセコーポレーション
小中学校事業本部
※ここでご紹介している教材ラインナップ・デザインなどは
変わることがあります。
冊子作成にあたり、ご協力いただいた先生方に
心から御礼申し上げます。
©(株)ベネッセコーポレーション

ミライシード活用者直伝！

2026年度
春版

ミライシード活用事例BOOK



「ミライシード」
未経験の先生
必見！

単元の中での具体的な
使い方がわかるから、

明日の授業から
すぐ実践できる！

「ミライシード」をさらに使いこなすための情報もご紹介しています

おすすめアプリ解説

企業コラボコンテンツ



新キャラ
登場！！

『活用事例BOOK』の構成について

小・中学校の事例では、各見開きの左ページは単元計画、右ページは各授業の具体的な流れについて説明しています。

『活用事例BOOK』は、「ICTはちょっと…」と 感じられている先生にこそお届けしたい1冊です。

日々の授業準備や、児童生徒・保護者の対応に多忙な先生方にとって、新しいことを次から次へと取り入れる余裕がないのは当然のことと思います。また、これまで先生が実践されてきた授業にどうミライシードを取り入れれば効果的かよくわからない。そんなご不安もよく耳にします。

お伝えしたいのは、私たちが提供しているICT支援サービス「ミライシード」は授業を180°変えるものではなく、「**子どもの変容**」と「**授業づくりの手軽さ**」を**両立させるためのツール**だということです。

操作ひとつで、子ども同士が多様な考え方に触れ合えたり、

先生の手元で、手軽に瞬時に一人ひとりの成長変化を可視化できたり。

ICTを活用すれば、**空間と時間の制約を超えた授業づくり**を実現できます。

この冊子では、さまざまなご事情からICTを使う余裕のない先生方に向けて、

「**ICT活用のはじめの一步**」としての活用法をご紹介します。

ぜひ、ご興味・ご関心のある事例だけでも、ご確認いただければと思います。



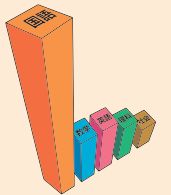
「ミライシード活用事例BOOK」編集部一同

国語	小3事例	2-3
国語	小4事例	4-5
国語	小5事例	6-7
国語	小6事例	8-9

＼あえて/
小学校はすべて**国語**の事例を
取り上げています。

「オクリンクプラス」を活用されている先生方の多くが、**国語**の授業で活用してくださっていることがわかっています。

言語活動と「オクリンクプラス」の相性がよく、効果が見えやすいためと考えております。



国語	中学事例	10-11
数学	中学事例	12-13
英語	中学事例	14-15
理科	中学事例	16-17
社会	中学事例	18-19



中学校は5教科の
事例をバランスよく
紹介しています。



中学校では5教科それぞれの事例を掲載し、すべての先生がご自身の教科でご活用いただける構成にしています。

ドリルパーク事例・おすすめ機能	...	20-21
テストパーク事例・おすすめ機能	...	22-23
カルテ事例・おすすめ機能	...	24-25
企業コラボ おすすめコンテンツのご紹介	...	26-28

おすすめアプリの事例・
機能も紹介！

個別最適な学びや見取りの力を育成するアプリの活用事例と、はじめの一步をご紹介します。

ミライシード もご覧ください♪ 公式サイト

『活用事例BOOK』でご紹介しきれなかった全国の事例を随時更新しています。活用背景や目的、アプリの種類、手順、こだわりなど、シンプルなものからユニークなものまで幅広くご紹介しておりますので、ぜひご覧ください。



「オクリンクプラス」の事例のカードは「教材ライブラリ」からご利用いただけます。



まずは小学3年生「国語」の事例からご紹介します! ▶



授業のねらい

好きな場面について友達と話し合う活動を通して、意見の共通点や相違点を整理し、人物の気持ちの変化や情景について場面の移り変わりと結び付けて、具体的に想像しながら読みを深めることが目標です。

福岡市立
笹丘小学校
森口 晶子先生のご実践

単元計画

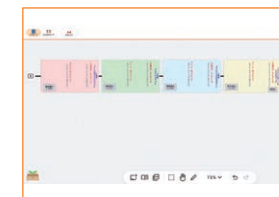
6時間想定

1	全文を読む、「読みのめあて」の設定	まずは先生またはデジタル教科書による読み上げを行います。
2	場面に沿って物語を読み取る	物語に出てくる「かぎあな」について、「オクリンクプラス」のカードにイラストで表現させます。アウトプットが文章内の描写に沿った内容になっているかどうかで、本文をきちんと読めているかの評価につなげることも可能です。
3		
4		
5		
6	好きな場面について話し合う	今回ご紹介する授業はこちら!

授業の流れ(1時間分) ※各種カードは「教材ライブラリ」からご利用いただけます。

事前準備

ポイントとなる4つの描写のイメージに近い色でカードを作成し、連結させたものを児童の「マイボード」に送付しておく。



それぞれのカードには、その描写に合った教科書内の挿絵を挿入しておく。

児童

「マイボード」上の連結されたカードから自分の好きな場面を1つ選び、その場面で起こった出来事と登場人物に起こった変化、その場面の好きな理由をまとめる。



好きな場面を1つに絞れない場合、2つ以上選んでもOK! 必要に応じて、教員自らがカードを埋める様子を画面上で例示する。

先生

「提出BOX」を公開設定にする。

児童

自分の好きな場面について意見を書いたカードを「提出BOX」に提出する。

児童

「提出BOX」上のカードを参考に、友達と意見を共有する。

操作のヒント



カードを作成する



カードを連結させる



マイボードの使い方



提出BOXの使い方

先生からのコメント

この取り組みでは、カードの色を変えることで、子どもたちの好きな場面についての傾向を瞬時に捉えることができました。また、「提出BOX」を公開することで、意見交流の前に「誰の意見を聞いてみたいか」を子ども自身が考えて決めることができたり、早く取り組みが終わった子が自ら付加修正を行ったりと、他者参照ができたから

こその変化が見受けられました。この授業のように、その子なりのその場面が好きな理由を交流させる活動を通して、友達の意見に耳を傾け、自分の意見との共通点や相違点を気づくことができるようになるといいなと思います。



「お礼の気持ちを伝えよう」

使用機能



授業のねらい

総合的な学習の位置付けとして遠足で伺った県庁と県警本部へ、気持ちのこもった御礼の手紙を書くことが目的です。

阿南市立
平島小学校
山下 涼子先生のご実践

単元計画

4時間想定 (総合の授業と融合して実施)

1	学習の見通しを立てる	手紙の内容と相手を考えることがゴールです。カードに、最低限のお礼が書かれた手紙と、より具体的な気持ちや振り返りが書かれた手紙の2種類を例示し、どちらのほうが気持ちが伝わるかを考えてもらいました。
2	手紙の型を知る	教科書で手紙の型について学んだうえで、実際に「マイボード」上で書いてもらいます。内容を吟味することが一番大切なので、漢字でつまずいたり、何度も消したりするストレスをなくすために、白紙と穴埋め形式のカードを用意し、いずれかのカードに打ち込む形で取り組ませました。最後に公開した「提出BOX」に提出してもらって終了です。
3	書いた文章を推敲する	今回ご紹介する授業はこちら!
4	できた手紙を読み返して完成させる	子どもたちから「手書きのほうがいいんじゃない?」という声が上がリ、最終的にカードの内容を紙にアウトプットしました。一度完成した内容なので、手書きのハードルが下がり、どの児童も時間内に完成させることができました。

授業の流れ(1時間分) ※各種カードは「教材ライブラリ」からご利用いただけます。

事前準備 子どもたちが前時で「提出BOX」に提出したカードを出力し、プリントとして配付しておく。また、3人ずつのグループをつくる。

児童 グループ内で、プリントアウトされたメンバーの手紙をお互いに読み合い、気づきがあれば直接プリントに赤ペンで線を引いたり、コメントを残したりする。

あえてアナログで活動させることで、大きな文字で内容をしっかりと読み込み、「相手に想いが伝わるか」について集中して考えられるようにする。

児童 グループ内で意見交換をする。

次の「推敲」の時間を十分に確保するために、タイムマネジメントに気をつける。

児童 友達からのフィードバックをもとに、それぞれが「マイボード」上で手紙をブラッシュアップする。

操作のヒント



カードをプリントアウトする

「お礼の手紙」は、授業の最後には必ず書くように指導しています。カードに文字を入力するだけで自動的に漢字に変換され、間違えても一から書き直す必要がないため、鉛筆で文を書くことへのハードルが下がるのはもちろん、文字数が自動的にカウントされることで、「これだけ書けた」という自己肯定感につながっていくのがポイントです。また、「提出BOX」や「みんなのボード」では気軽に他者参照ができるので、児童も積極的に取り組んでいます。

本時の授業では、児童が書いた手紙を互いに読み合い、気づきがあれば直接プリントに赤ペンで線を引いたり、コメントを残したりする。この活動を通して、児童は相手の気持ちや考えを理解し、自分の手紙をブラッシュアップする。また、授業の最後には必ず書くように指導しています。

先生からのコメント

「オクリンクプラス」は、国語において最も重要な観点である「文章の内容」に着目して学ぶことができるので、よく活用しています。カードに文字を入力するだけで自動的に漢字に変換され、間違えても一から書き直す必要がないため、鉛筆で文を書くことへのハードルが下がるのはもちろん、文字数が自動的にカウントされることで、「これだけ書けた」という自己肯定感につながっていくのがポイントです。また、「提出BOX」や「みんなのボード」では気軽に他者参照ができるので、児童も積極的に取り組んでいます。

子どもが子どもの見本となり、教員は手元でクラス全体を俯瞰的に見取れるようになりました。その分、本当にフォローが必要な児童の指導にあたることができます。子ども一人ひとりに寄り添ってあげたいと考えておられる先生ほど、ぜひICTを活用してほしいと思います。30人分のノートを持ち運ぶ労力をカットして、子どもたちの学びや成長をタブレット一つで感じ取れる毎日を体感していただきたいです!



「みんなが使いやすいデザイン」



#授業のねらい

友達の作成した文章に触れ、感想を伝え合うなかで、**新しい視点を得たり、自分の成長を実感したり**することがこの授業の目標です。

杉並区立
沓掛小学校
小松 京子先生のご実践

単元計画

8時間想定

1	「ユニバーサルデザイン」についてのインプットと単元目標・学習計画の設定	1時間目の最後に「身近なユニバーサルデザインは？」という問いを投げかけて2時間目の活動につなげます。
2	「ユニバーサルデザイン」についてのアイデア出し	「みんなのボード」で共同編集しながら、身近なユニバーサルデザインについて考え、アイデアを広げていきます。この時間で、自分が調べたいと思うテーマを決めます。
3	(個人)調べ学習	
4	(個人)情報の整理	一人ひとりが自分のテーマについて本またはインターネットで調べます。情報が集まったら、カードの色を変えたり、使わないものには手書きでxをつけたりしながら、伝えたいことを整理します。文章の中で引用したい部分は、「引用カード」に記します。
5	(個人)文章の組み立て・構成表の作成	
6	(個人)文章の作成・推敲	文章に加えてわかりやすいタイトルをつけたり、画像を入れたりして、カードを完成させます。
7		
8	文章の共有と意見交流・振り返り	今回ご紹介する授業はこちら!

※3～7時間目は自由進度学習にすることもできます。

授業の流れ(1時間分) ※各種カードは「教材ライブラリ」からご利用いただけます。

事前準備

「みんなのボード」の【クイックメニューから】子どもの名前を「非表示」に設定しておく。

児童

「マイボード」を開き、前時に完成させたカードを「みんなのボード」へ送る。



児童

友達のカードを読み合う。リアクションボタンを押したり、コメントしたりして、感想を伝え合う。



提示された観点に沿って、具体的にコメントし感想を伝える。
観点①:書き方について(小見出し・引用・まとめ)
観点②:内容について(初めて知ったこと・興味をもったこと)



振り返りに活かせるよう、自分に届いたコメントがあれば必ず目を通すようにする。



児童

各自で単元の振り返りを行う。



振り返りの観点は、教科書に記載されているものを参考に。

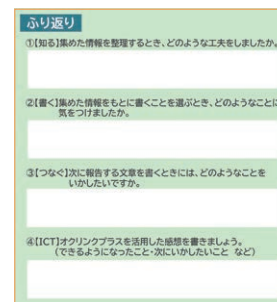
操作のヒント



みんなのボードの使い方



カードにリアクション・コメントをする方法



先生からのコメント

この活動では、名前を非表示にしたことで、自分がおもしろいと感じたカードを読み、純粋な感想を伝え合うことができていました。また、名前を表示しないことをあらかじめ伝えていたので、文章を作成する段階でも、読み手に読んでもらえるように、文章構成はもちろん、タイトルや図版なども含めて一層工夫している様子が見受けられま

した。共有の速さは「オクリンクプラス」の魅力の一つなので、読み合いの活動には相性がいいと感じています。最後の振り返りでは、ICTの活用についても振り返りの観点に入れるとよいかもかもしれません。



「情報と情報をつなげて伝えるとき」 「デジタル機器と私たち」



授業のねらい

提案のきっかけとなった自分の経験や調べた情報を「事実」、それによってどう考えたのかという提案の内容を「主張」として、相手に伝える内容・構成に組み立てられるようになることがこの授業の目標です。

日高川町立
川辺西小学校
嶋 祐輔先生
ご実践

単元計画

10時間想定

1	課題の確認・テーマの設定
2	テーマに対する情報収集
3	提案内容の検討
4	情報と情報をつなげて伝える時の表現の確認
5	
6	文章構成の検討・意見交流をもとにした改善
7	
8	下書きの作成(個人)
9	下書きの共有・推敲・清書
10	提案する文章の共有・意見交流

・(提案しようと思う)きっかけとなった情報＝青色
・提案したい内容＝赤色
というように、「オクリンプラス」のカードの色を分けて情報を整理しやすくします。また、調べた情報にはそのソースを貼り付け、いつでも戻れるようにします。

「カードBOX」に必要な表現を置いておくことで、わからない児童も選択するだけでOKな状態にしておきます。

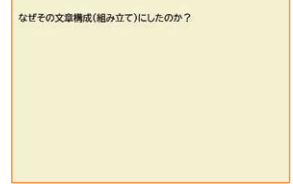
今回ご紹介する授業はこちら!

※8時間目以外はグループでの活動を想定しています。

授業の流れ(2時間分) ※各種カードは「教材ライブラリ」からご利用いただけます。

事前準備

「みんなのボード」上に、「なぜその文章構成(組み立て)にしたのか」という問いが書かれたカードを用意しておく。



→ 問いを置くことで、子どもたち自身に学ぶ目的を意識させる。

児童

2、3時間目の活動で使用した自分のグループのボードを開いておく。

児童

自分たちで出し合った青色のカードと赤色のカードをどのように並べ替えると、自分たちの主張が伝わりやすいかをグループ内で検討する。



→ 並べ方のフォーマットは与えず、まずは子どもたちに自然に考えさせるようにする。話し合いが行き詰まっている場合は例示する。

児童

自分たちのグループで考えたカードの並べ方について、ほかのグループと「みんなのボード」上で共有する。

児童

意見交換を経て得た気づきをもとに、各グループで自分たちの文章構成を改善する。

操作のヒント



共同編集する方法



カードBOXの使い方

先生からのコメント

「事実」と「主張」でカードを色分けしたことで、子どもたちが情報を整理しやすくなりました。また、前時の活動で確認した、提案するうえで有効な表現を「カードBOX」にあらかじめ置いておくことで、子どもたちが困った時にヒントとして活用していました。ポイントは、調べたり思い返したりする道筋で迷わせないように、単元の最初で、ゴールをできるだけ具体的に設定することです。そのうえで、「事実」と「主張」のカードを色分けして、情報を整理しやすしてみました。

また、メインの活動である「文章構成の検討」に向けて4、5時間目で振り返った表現に、いつでも戻れるよう、「カードBOX」を作成して置いておきました。これにより、子どもたちがつまづいた時に、カードを選択するだけでOKな状態だったので、スムーズに考えることができていたようでした。



「論理の展開を意識して小論文を書こう」

使用機能



みんなのボード

授業のねらい

説得力のある小論文を書くために、論理の展開や意見と根拠、それらをつなぐ「理由づけ」を考え工夫することが、この授業の目標です。

砺波市立
出町中学校
荒俣 美紀先生のご実践

単元計画

5時間想定

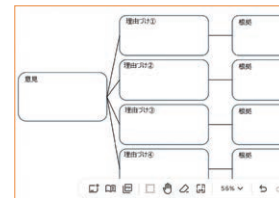
1	「説得力のある小論文」について考える	教員が小論文のモデルを示しながら、文中にある「意見」「理由」「根拠」の流れについて確認します。
2	小論文の課題の選択と、根拠となる客観的なデータの読み取り(個人)	データから読み取った情報を、「根拠」としてひたすらアウトプットしていきます。この活動以降は、「みんなのボード」に出席番号を振ったボードをクラスの数分用意しておき、各番号のボード上で作業します。これにより、集中して個人思考しつつ、ボードを切り替えるだけで他者参照できるという状態を実現できます。
3	集めた根拠をもとに、意見や理由づけ、文章の展開を考える	
4	原稿用紙に小論文を書く(個人)	
5	友達と意見交流する	

今回ご紹介する授業はこちら!

授業の流れ(1時間分) ※各種カードは「教材ライブラリ」からご利用いただけます。

事前準備

「みんなのボード」の一人ひとりのボードに、「意見」「理由づけ」「根拠」を振り分けるための枠組みが描かれた、既存の画像を挿入しておく。



生徒

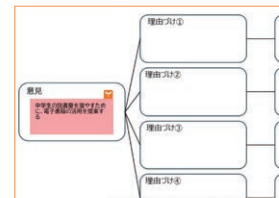
前時と同じように、「みんなのボード」上で、自分の出席番号が振られたボードを開いておく。

生徒

前時で考えた「根拠」のカード(青色)を整理しながら、課題に対する意見を考え、「意見」のカード(赤色)に書く。

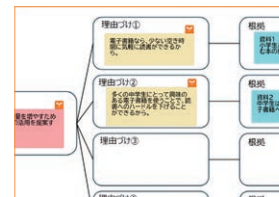


これ以降、必要なタイミングで同じ課題を選んだほかの生徒のボードを参照してもよいことを伝えておき、手が止まっている生徒が多い場合は、代表生徒のボードを電子黒板に映すようにする。



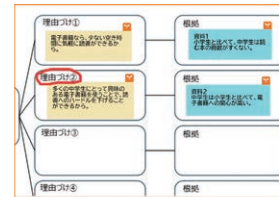
生徒

根拠と意見をつなぐ理由づけ(自分の解釈)を「理由づけ」のカード(黄色)に書いて、それぞれの枠組みの中の適切な場所に配置する。



生徒

自分の意見に対して、最も説得力があると思われる根拠と理由づけを選択する。カードを並べ替えて、どの順番で根拠や理由づけを伝えるのがよいかを考え、文章の構成や展開を工夫する。



操作のヒント



みんなのボードに背景画像を設定する方法

先生からのコメント

書くことの授業、特に中3になって「小論文」という形になると、苦手意識が高まる生徒が多くなりますが、実際に書くという作業の前に、「オクリンクプラス」で他者参照はもちろん、カードを並べ替えたり、消したり、追加したりしながら、文の組み立てを考えていく活動が、書くことに対するハードルを下げるにつながると考えています。今回ご紹介した授業では、「意見」「理由づけ」「根拠」それぞれの枠をつくり、カードを色分けしたことで、情報の

ラベリングがうまくできない生徒もスムーズに活動できたと思います。要素を整理するための枠は、「みんなのボード」の背景に既存の画像を挿入するだけだったので手軽でした。「オクリンクプラス」上にあらかじめ用意されているフォーマットや、教科書に掲載されているもの、自作したものなどを活動の内容によって使い分けるとよいと思います。



授業のねらい

具体的な場面から数量の関係に着目し、規則性を見出して式で表す力を育てる授業です。紙の枚数とマグネットの数の関係を通して、数え上げ→規則→文字を使った一般化($3x+1$)へと段階的に考えを深めていきます。正解を早く出すことよりも、考え方を表現し、比較し、洗練する過程を重視しています。

安城市立
安祥中学校
芦澤 大地先生のご実践

単元計画


14時間想定

1	導入
2	
3	文字式の表し方
4	
5	式の値
6	
7	
8	文字の式の計算
9	
10	
11	関係を表す式
12	
13	文字の式の利用
14	

「オクリンクプラス」のカード上に「ドリルパーク」を貼り付けて復習させていました。短時間で、解かせたい問題を解かせたい量だけ簡単に出题できるのは、非常に便利です。

マイボード 公開中!
公式サイト

ひとつの画像をもとに複数の等式を見つけ出す授業です。



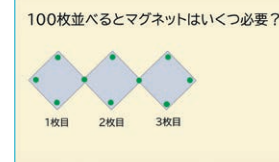
今回ご紹介する授業はこちら!

授業の流れ(2時間分) ※各種カードは「教材ライブラリ」からご利用いただけます。

第1時

事前準備

紙とマグネットが描かれた右のようなカードを、「100枚並べるとマグネットはいくつ必要?」という問いとともに用意しておく。



先生

用意しておいたカードを各生徒の「マイボード」に配付する。

生徒

書かれている問いに対する答えをヒントなしで考える。

生徒

カード上に考えを表現し、公開設定にした「提出BOX」に提出する。



教員から他者参照をする/しないなどの指示は特にせず、生徒自身に主体的に考えさせながら、全員が何かしらの意見を持つまで待つようにする。

第2時

事前準備

前時で提出されたカードの内容を確認しながら、生徒を4、5人ずつのグループに振り分ける。また、そのグループ数に「全体用」を合わせた数分の「みんなのボード」を作成しておく。



考え方や理解度が高くなるべく揃うようにグループをつくとgood!

生徒

各グループで、前時に作成したカードを共有し合いながら、相違点を見比べ、整理する。仕上げに、別の色のカードを作成し、新たに班でまとめた考えを表現する。

生徒

グループごとに、カードを「みんなのボード」の「全体用」に提出し、教室内のテレビに画面を映しながら発表する。



教員はできるだけ意見が曖昧なグループから指名し、少数派の考え方をしているグループははっきりとした根拠を持っていてグループという順に発表させ、クラス全体の理解度が段階的に深まるように意識する。

先生からのコメント

プリントを用いた授業では、その生徒の発想を授業者が把握しきれず、せっかくの素敵な意見も授業に反映できないことがあります。「オクリンクプラス」を使えば、生徒の意見を授業者がひと目で把握することができ、さまざまな意見から、どの意見を抽出するかを選択することが可能です。また、共同編集を使うことで、タブレット上での生徒同士の関わり合いを実現させ、タイムリーに意見共有することができます。本時に挙げた授業について

は、生徒の発想により多種多様な答えが出ると考えられます。今回の「文字の式」の単元をはじめ、生徒の意見を幅広く抽出し、授業に活かしたい時は「オクリンクプラス」が非常に便利です。





中学/英語 「不定詞」

副詞的用法 形容詞的用法 名詞的用法

授業のねらい

自分自身が多種多様な文章に触れたり、自分のつくった文章が多くの人からさまざまなフィードバックを受けたりすることを繰り返すなかで、作文の質を高めていくことが授業のねらいです。

春日部市立
大沼中学校
門井 佑介先生のご実践

単元計画

7時間想定

1	名詞的用法の基本的な使い方を学ぶ	「ロボットが欲しい」をwant toを使って表現してみます。
2	教科書の新出語彙を用いて名詞的用法の文章を作成する	形容詞的用法を用いて、どのようなロボットが欲しいのかをより具体的に説明してみます。
3	形容詞的用法の基本的な使い方を学ぶ	
4	教科書の新出語彙を用いて形容詞的用法の文章を作成する	ロボットが欲しい理由や目的について、副詞的用法を用いて説明してみます。
5	副詞的用法の基本的な使い方を学ぶ	子どもたちは授業の最後に「提出BOX」にカードを提出します。教員は7時間目に向けてスタンプ機能を活用し、フィードバックします。間違っているところは、プリント同様に添削して戻します。
6	教科書の新出語彙を用いて副詞的用法の文章を作成する	
7	作文をブラッシュアップしたうえで、カードを共有し、感想を伝え合う	今回ご紹介する授業はこちら!

授業の流れ(1時間分) ※各種カードは「教材ライブラリ」からご利用いただけます。

事前準備

ウォーミングアップとしてのペア活動のために、4つの「不定詞を使った文」を紙に1つつ書いておく。また、STEP3で使うための、ロボットのイラストと不定詞を用いた英文の一部が書かれた「基本カード」と、接続詞が書かれた「ヒントカード」を用意しておく。さらに、「みんなのボード」は、生徒の名前が非表示になるよう設定しておく。

生徒

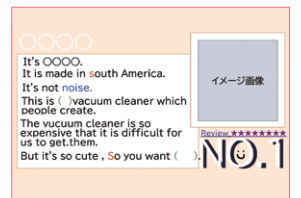
ウォーミングアップとして、不定詞の用法を振り返るためのペア活動を行う。

ペア活動の内容

ペアの一人が掲示された「不定詞を使った文」を暗記し、英語のまま相手に伝える。相手はその英文を聞き取り、手で書き出す。役割を交代しつつ2セット繰り返し、全文を完成させる。この活動は4技能の実践を網羅しており、効果的に既習文法の振り返りを行うことができる。

生徒

自分の「提出BOX」に返却されたカードを見て、前時で学んだことを復習する。

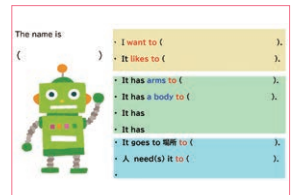


先生

「みんなのボード」に基本のカードを配付する。

生徒

基本カードを自分用に複製する。複製したカード上で、不定詞に加え、接続詞を用いてつながりを持った文章をテーマに沿って作成する。



つまずきやミスをその場ですぐに指摘するために、あえて「みんなのボード」上で作業させる。

生徒

作成したカードを共有し、お互いにコメントやスタンプでフィードバックする。

できるだけたくさんの方の人の文章に触れるよう教員が促す。

先生からのコメント

「オクリンプラス」では、英語を教えるうえで私が一番心がけている「使って覚える」を簡単に具現化することができます。実際に、毎時間コツコツとアウトプットとフィードバックを繰り返していることにより、本校の英語の成績は市内平均よりも高くなっています。今回紹介した授業では、自分が表現したロボットがどのような姿をしている

か、生成AIを活用してイラスト化させたところ、大いに盛り上がりました。「ミライシード」とAIをうまく掛け合わせて、一層効果的な活動ができればいいと思います。





「酸・アルカリとイオン」

授業のねらい

酸性とアルカリ性を混ぜた時に、「色が変わる」から「なぜ変わるか」へ視点を移すことがこの授業の価値と捉えています。酸とアルカリの量によって色が変わること、黄でも青でもなく緑になる理由を、実験の結果と照らし合わせながらみんなで考え、生徒主体で中和の原理に気づいてもらいたいと考えました。

江別市立
江陽中学校
藤本 典久先生のご実践

単元計画

7時間想定

1	酸性、アルカリ性の水溶液の性質を知る
2	(実験)酸性、アルカリ性の正体について探る
3	
4	酸、アルカリの電離の式を学ぶ
5	(実験)酸性とアルカリ性の水溶液を混ぜた時の変化を確認する
6	実験の考察をする
7	中和について振り返る

この単元の目標は「酸・アルカリの性質を覚える」ことではなく、「見えないイオンを使って中和反応を説明する力を育てる」ことです。

実験は基本的に教科書で紹介されているとおりに行いますが、単元の進み具合や生徒の理解度に合わせて柔軟にコーディネートしています。

実験の最後に「酸とアルカリが混ざった時、水溶液中で何が起こったのだろう」と問いかけ、考察へつなげます。

今回ご紹介する授業はこちら!

授業の流れ(1時間分) ※各種カードは「教材ライブラリ」からご利用いただけます。

事前準備

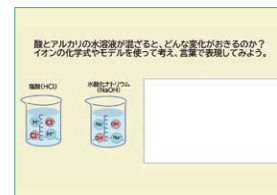
「みんなのボード」上に班の数分のボードを作成しておく。

生徒

「みんなのボード」の自分の班のボードを開き、班内で意見を交わしながら実験に対する考察を行う。



ほかの班のボードを行き来しながら参考にしてもよいこととする。

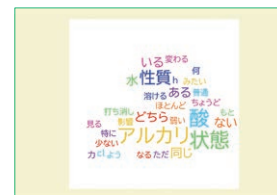


生徒

班内でまとめたカード1枚を「みんなのボード」に提出する。

先生

画面を映した電子黒板で、「キーワード集計」を用いて生徒の意見の傾向を見せたり、カードの内容を読み上げたりしながら、着眼点などを整理し、実験のまとめを行う。



操作のヒント



キーワード集計

先生からのコメント

今回取り上げた授業では、「みんなのボード」でほかの班のボードを行き来したり、「キーワード集計」で全班の考え方を可視化したりするなかで触れた多角的な意見を参考に、どの生徒も、起こった事象について主体的に考えることができていました。カードを色分けしたり、イラストや化学反応式のパーツをカードに貼り付け、パズルのよ

うに組み合わせたりして表現させるのも、視覚的に理解しやすくいいと思います。これからも「オクリンプラス」の効果的な使い方を研究していきます。





授業のねらい

身近に実在する過疎地域が抱える課題について調べ、情報を整理したうえで、地域を活性化するための提案ができることがこの授業の目標です。

広島市立
五日市南中学校
山根康太郎先生のご実践

単元計画

5時間想定

1	地域の地理情報を知る	単元を貫く問い(中国・四国地方の交通・通信網の変化は、人々の暮らしにどのような影響を与えてきたのでしょうか?)と評価方法を提示した後、地名、有名な場所や気候について学びます。
2	交通網の整備を知り、それによる生活の変化を理解する	2時間目から3時間目にかけて、交通網の整備とその影響について段階的に視野を広げて考えていき、4時間目の過疎の課題につなげていきます。
3	交通網の整備を知り、それによる産業の変化を理解する	
4	ヒト・モノ・情報の関連性を考える	今回ご紹介する授業はこちら!
5	中国・四国地方のまとめ	レポート課題として、共有機能OFFの「提出BOX」に提出してもらいます。そのまま評価に使えるので便利です!

授業の流れ(1時間分) ※各種カードは「教材ライブラリ」からご利用いただけます。

事前準備

生徒が調べた情報をまとめるためのカードを作成しておく。

➡ フォーマット化することで、提案書に含める要素を統一する。

先生

中国・四国地方における交通網の発展がもたらした効果以外の部分にも目を向けるよう生徒に問いかけ、具体的な過疎地域の地名を提示する。

先生

子どもたちの「マイボード」にまとめ用カードを配付する。

生徒

指定された地域について個人で情報を調べ、活性化する方法について提案をまとめていく。

生徒

カードを「提出BOX」に提出する。

➡ この時、「提出BOX」は生徒同士で見える状態にしておく。

生徒

「提出BOX」上のカードを生徒同士で見合っ、意見交換したり、自分のカードの内容をブラッシュアップしたりして、提案書として仕上げる。

広島県広島市佐伯区『湯来町』を活性化させるプランを提案しよう!!

条件①:カード1枚目は『湯来町』の現状(基本情報)をまとめる
条件②:カード2枚目は『湯来町』の課題をまとめる
条件③:カード3・4枚目は『湯来町』の活性化プランをまとめる

※カード1・2枚目に取り上げた現状と課題を踏まえて、湯来町の活性化(※目的を明記できる内容※学校)を工夫して2つ提案すること
※カード4枚を順番に並べて提出BOXへ提出しよう!!



先生からのコメント

ご紹介した授業では、わかりきった答えではなく、「提案書」という形で情報をまとめてもらうことで、カードを作成する側も読む側も、楽しんで取り組んでくれていました。生徒同士でアイデアを共有し合うなかで、新しい視点を持つと同時に、「正解は一つではない」ということを実感しているようでした。彼らの自由な発想を妨げずに学びを

提供できたと思います。この授業に限らず、私は基本的に「オクリンクプラス」のカードを板書の代わりとして使っています。紙のかさ張りも解消でき、カード上の記録をたどれば場所や時間に制限なく授業を振り返ることができるので、生徒にも好評です。





ドリルパークで個別最適な学びを実現

AI搭載のデジタルドリルは、子どもの理解度に
一人ひとりの「できた」を引き出し、
応じて個別最適化した問題を出題することで、
積極的な学習を促せるのが特徴です。

ドリルパーク 活用事例

長野県 長野市立広徳中学校

長期休業中の課題から授業の振り返り、個別最適な学びまで
“まずは試してみる”から広がった
ICT活用

長野市立広徳中学校では、特定の教科にとどまらず、学校全体で
「ミライシード」の活用が自然な形で広がっています。本記事では、
長期休業中の課題から、英語科の「自由進度学習」、特別支援
学級での「個に応じた学び」まで、先生方がそれぞれのペースで
試行錯誤してきた歩みをご紹介します。



詳細はこちらから▶



東京都 葛飾区立本田中学校

教育課程に「モジュール学習でのドリルパーク活用」を明記
なぜ本田中学校は学校として
ドリルパーク活用に取り組むのか

本田中学校では、「先生の働き方改革」と「生徒のICT活用機会
の確保」を両立させるため、ドリルパークを活用したモジュール学
習を教育課程に正式に組み込みました。本記事では、授業時数
にゆとりを生み出し、三者面談や個別指導の時間を充実させた
宮嶋副校長先生と教務主任の山田先生の実践をご紹介します。



詳細はこちらから▶



愛媛県 西予市立城川小学校

自宅学習でも、校内の隙間時間の学習でも
ドリルパークなら「やりきれる」、
「やりきれる」から「力がつく」

西予市立城川小学校では、学力向上の柱として「ドリルパーク」
を全校で活用し、児童の学習量を最大化する仕組みが構築され
ています。本記事では、印刷や配付の制限を超え、宿題や隙間時
間で圧倒的な演習量を確保し、漢字テストの平均点を大幅に引
き上げた、山岡先生の実践をご紹介します。



詳細はこちらから▶



動画解説

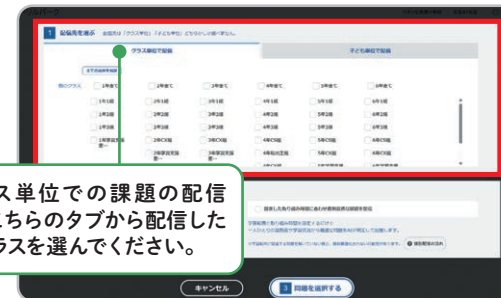


まずは
ここから!

演習問題・宿題の作成

学んだことの確認や宿題として、
取り組ませたい問題がある時にお使いいただけます。

STEP 1 配信先を選択



クラス単位での課題の配信
は、こちらのタブから配信した
いクラスを選んでください。

STEP 2 配信種類を選択



配信種類を選んだら、最後に
[問題を選択する]をタップ!

STEP 3 配信する問題を選択



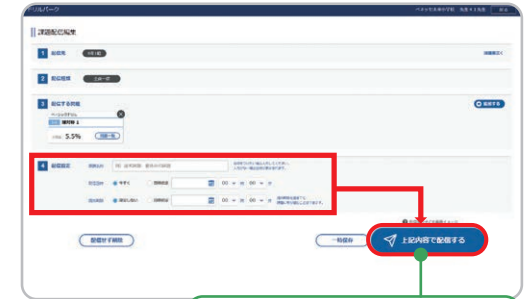
最後に[配信設定へ]
をタップ!

① 学年とドリル集を
選択。

② 単元を選択し、
ドリルを配信選択。



STEP 4 配信日時・期限を選択



各項目を設定したら、最後に
[上記内容で配信する]をタップ!

演習問題を解かせた後は…

子どもたちの学習履歴をチェック

学年・クラスの平均やクラス内の注目すべき子ども、つまづいて
いる問題がひと目でわかり、効果的な個別指導に活かせます。取り
組み中にリアルタイムで確認し、授業につなげることも可能です。



テストパークで先生の働き方改革と子どもの学力向上を支援

デジタルテストならではの機能を拡充させることで、先生のテストにおける負荷軽減とともに、子どものテスト後の復習効果の最大化を図り、学力向上につなげます。

テストパーク 活用事例

青森県 むつ市立第一田名部小学校

解いたその日に、確認して、やり直す
テストパークが生む
“匂を逃さない”学習サイクル

「ICTが得意でなくても、まずは子どもと一緒に試してみる」。そんな筒井先生の自然なスタンスが、教室に活気ある学びを生んでいます。本記事では、翌日の紙のテストに向けた「理解度の確認」としてテストパークを活用し、解いた直後の“匂”を逃さないフィードバックを実現した算数の授業をご紹介します。



詳細はこちらから▶

福井県 敦賀市立中央小学校

テストを「受けて終わり」にしない
即時フィードバックからの自主的な学び

「わからないところを早く解決したい子を、返却まで待たせたくない」という水戸先生の思いのもと、「テストパーク」による個別最適化された振り返りを実現されています。本記事では、テスト直後の「考えた記憶」が鮮明なうちに、データに基づいた全体解説と個別の学び直しを組み合わせた授業展開をご紹介します。



詳細はこちらから▶

長野県 長野市立若穂中学校

タイムリーな採点と振り返りで
生徒の知識定着を図ると同時に、
テストにおける教員の業務負担を軽減する

長野市では、場所を問わず学びを継続できる環境をめざし、全小中学生への端末配付とICT活用を推進してきました。本記事では、CBT化を見据えた「テストパーク」の導入により、個別最適化された学びと教員の業務改善を同時に実現した長野市立若穂中学校の実践をご紹介します。



詳細はこちらから▶

動画解説



単元の確認テスト・プレテストの実施

まずは
ここから！

教科書の全主要単元の確認テストを収録しているため、単元の学習が終わった段階のチェックテスト、単元確認テストや定期テストなどの前のプレテストとしてお使いいただけます。

STEP 1 [テストを配信する]をタップ



STEP 2 クラス・配信するテストを選択



STEP 3 [配信する]をタップ



STEP 4 [テスト開始]をタップ



テストを実施した後は…

採点後にすぐに返却・振り返り

約8割の問題が自動採点されるため、最短、テストを実施した授業内で返却することが可能です。記憶が新しいうちに間違えた箇所を把握し、個別に、または授業内でクラス全体で振り返ることで、知識の定着を促します。





カルテで日々の授業や 学習の記録を一元管理

[子ども用カルテ]では、1週間を1サイクルとして、自分で決めた目標を意識して学習に取り組むことで、子どもの自己調整学習を自然に後押しし、[先生用カルテ]では、ミライシードの学習履歴を活用し、子どもたちの「つまずき」や「成長」を先生がより効果的に把握できるよう支援します。

カルテ 活用事例

北海道 平取町立平取小学校

がんばりが見えると、学びは続く
カルテで身につく、
クラスの前向きな学習習慣

平取町立平取小学校では、ミライシードを日々の学習に取り入れながら、子ども一人ひとりの学びを丁寧に見守る取り組みを積み重ねてきました。本記事では、カルテを日々の実践に取り入れながら、学びが続く学級づくりに取り組んできた高橋先生、そしてその変化を学校全体の視点で見つめてきた木田校長先生の実践をご紹介します。



詳細はこちらから! ▶



東京都 中野区立明和中学校

「どう学んだか」を自分で読み取り、次につなげる
カルテの単元別学習レポートを活用した
ふりかえり実践

内藤響先生は、「学習の中での『ひらめき』の喜びを生徒全員に感じてほしい」という思いのもと、日々ICTを活用した授業づくりに取り組まれています。本記事では、「カルテ」に蓄積された学習データをふりかえりに活かし、「どう学んだか」を自ら読み取り、次の学びへとつなげていく実践をご紹介します。



詳細はこちらから! ▶



秋田県 湯沢市立湯沢西小学校

自分の学びを、自分で選んで進める
夢中になって取り組むうちに、
自然に高まる学習意欲

湯沢市立湯沢西小学校では、子ども自身が課題を設定し、学習し、自ら学びをふりかえる「秋田の探究型」の授業スタイルを大切にされています。本記事では、「子ども用カルテ」の導入によって、1週間の学習目標とドリル学習が連動し、子どもたちが自ら学びのリズムを整え始めた実践をご紹介します。



詳細はこちらから! ▶



※こちらは2025年10月の正式リリースに先駆けて実施された、先行導入校での事例です。

動画解説



まずは
ここから!

[子ども用カルテ] 自己調整を促す仕掛け

1週間の学習の目標やミッションを決定します。目標とミッションに合わせて各アプリでの学びを進め、翌週のはじめに前週の学びをふりかえります。

STEP 1

[目標&ミッションを設定する] をタップ



STEP 2

今週の目標にする教科を選択



特定の教科のほか、「暗記」「計算」「漢字」などの分野も選べます。

STEP 3

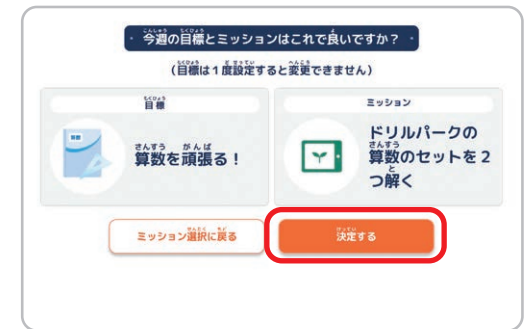
任意のミッションをタップ



任意のミッションには、オクリンクプラスまたはドリルパークでの取り組みが表示されます。

STEP 4

[決定する] をタップ



先生用カルテで…

アプリ横断の情報で効率的に評価

子ども一人ひとりの成績や学習の軌跡を単元ごとに集約し、アプリを横断して一覧化。検索や出力も簡単にできるため、評価の効率化を実現します。



オクリンクプラスですぐ使える！ 企業・団体コラボコンテンツのご案内

お使いいただけていますか？！

生産者さんって
なんか大変そう...

Change!

子どもの意欲が
変わる！

よく見るこの商品って
こんな背景があったのか！

教科書に
閉じた
学びだと

コラボ
コンテンツ
があると



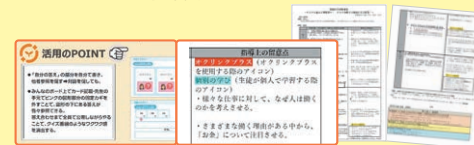
教材の詳細はこちらからご覧ください！

オクリンクプラスのご契約校さまはすぐに使えます！

現役教員の監修つきでわかりやすい！

指導案

単元の進行はもちろん、スライドやワークシートの使い方の
ポイントがわかる指導案もセット！



オクリンクプラスでの効果的な活用法がすぐわかります。

現役の公立小・中学校の
先生による監修で使いやすい。



印刷・配布の手間なく使える！

カード

社会の“生”に触れられる！講義スライド



実際の開発現場の
想いや工夫の動画
なども。

協働的な学びを深める！ワークシート



集計機能やコメント
機能などふんだんに
使えます。

指導案とカードがセット。1時間からでも使いやすい設計です。

新たな一年のスタートに、年間計画の一部に、「実社会とつながる学び」をご検討ください！

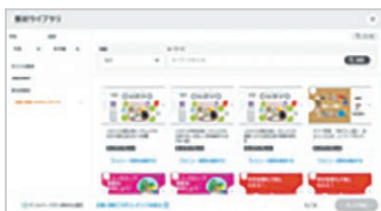
News

1

見て、選んで、さらに
使っていただきやすくなりました！



画面下の教材ライブラリをクリック



学年と、科目選択で「その他」を選び、
めあてのカードにチェックを入れる

専用サイト以外に、オクリンクプラス内教材ライブラリからも、企業コラボコンテンツのカードを取得できるようになりました。対象の学年別「その他」の教科から選んでいただけます。



マイボードにカードが出現！すぐ使えます！

カードが
さっと取りだせて
便利！

授業準備の延長でさっとご覧いただけます。

他学年のコンテンツもご利用可能。一度ぜひ、カードをご覧ください！

News

2

2025年秋以降
さらに7社とのコラボが実現！



小4~中3
通年

道徳

「家族の幸せのために大切なことを考えよう」



小5
3学期

家庭科

「いっしょにほっとタイム」



小4
1学期(5-6月)

社会

「ごみはどこへ」



小4~6
通年

国語/総合

「『手書き』のチカラ」



小5・6
通年

総合/社会

「テクノロジーで地域課題を解決しよう」



小5
3学期(2月)

社会

「私たちの生活と森林」



小6
3学期(2月)

社会

「世界の未来と日本の役割」

年間の「総合」の時間計画検討にも
お役立てください！

教科単元としても、総合的な学習の時間でも。

社会課題と企業の努力をつなぎ、学びを深めるコンテンツです。

オクリンクプラスですぐ使える! 企業・団体コラボコンテンツ Q&A

自由に使えるの?

想定単元・学年は明記しておりますが、
もちろん単元・学年を超えてお使い
いただけます。

例えば5年生想定のコラボカードも、情報部分などを
抜粋して3年生でお使いいただく、なども可能です。

特別な登録がいる?

オクリンクプラスを導入いただければ今すぐ始められます。
先生用の専用サイトか、オクリンクプラス内の「教材ライブラリ」から共有コードを
使って「カード」を取得してください。

誰かが来てくれるの?

実際の企業の方をお呼びすることはありません。
学習状況に合わせて使っていただける動画やオリジナルコンテンツをご用意
しています。ぜひ一度、まずは「カード」をご覧ください!

どんなコンテンツがあるの?

現在14社さまとのコンテンツをご用意しています。これからも教科書から開かれた学びに向けて、リリース予定です!

企業名	LINEヤフー	ZOZO	富士通	野村 ホールディングス	ニトリ	オハヨー 乳業	トヨタ 未来スクール
時期・学年	小1~中3 通年	小4~6 通年	小5・6 通年 ※中学生向け教材もあり	中1~3 通年	小4 1学期 (5-6月)	小5 2学期 (10月)	小5 2学期 (10月)
教科	総合	総合	総合/社会	特別活動	社会	社会	社会
テーマ	情報モラルと 情報活用能力	キャリア教育	テクノロジーで 地域課題を解決しよう	職場体験活動 (キャリア教育)	ごみはどこへ	これからの食料生産と わたしたち	自動車をつくる 工業
ねらい	「自分と他人の感じ 方の違い」に着目し、 協働学習することで、 インターネットトラブルなど NG行動を避けられる ようになります。	動画を中心に、「楽しく 働く」について考えを まとめ、協働学習を 行います。今後、自分 が働く意味を考える一 歩目が踏み出せます。	「テクノロジーの3つ の機能(見える化・自 動化・つながる化)」を 学習を行います。今 後、自分が働く意味 を考える一歩目が 踏み出せます。	職場体験の事前事後 学習に金融教育を 無理なく取り入れ、 職場体験での学びを さらに深めること ができます。	ごみの減量や資源を 循環させる取り組み を具体的に学び、 生産と消費を関連 付けて考える力を身 につけます。	日本の食料自給率を きっかけに、課題 発見・解決策の視 覚的整理を行い探究 学習ができます。	環境保全と経済発 展の両立をめざす 取り組みを疑似体 験し、企業と社会の つながりを学べま す。(※単元内5,6時 限目安)
コンテンツ							

企業名	三井不動産	UCC ジャパン	コメダ珈琲店	ジブラルタ 生命	エーザイ	岡山県警察	PILOT
時期・学年	小5 3学期 (2月)	小6 3学期 (2月)	小5 3学期	小5 2学期(10月) ※中学生向け教材もあり	小4~中3 通年	小4~6 通年	小4~6 通年
教科	社会	社会	家庭科	家庭科/総合	道徳	道徳/総合	国語/総合
テーマ	私たちの 生活と森林	世界の未来と 日本の役割	いっしょに ほっとタイム	物や金銭の 計画的な使用	家族の幸せのため に大切なことを 考えよう	インターネットや SNSの上手な使い方	「手書き」のチカラ
ねらい	林業を保全する視 点と木材を活用す る視点について学 び、「植える→育て る→使う→植える」 の循環を理解す ることができます。	森林保全と生産者 の生活向上など相 反する視点を行き来 し、世界の課題を自 分ごと化。自分に できる行動を選択す る主体性を養います。	身近な「くつろぎ」 の切り口に、生活 をよりよくする工 夫を主体的に考 え、持続可能な 視点から身につ けます。	お金の意味、収支 のバランス、契約 行動や買い物する ときに必要な基 礎知識など、単 元の要点を網羅 しています。	「認知症」をテ ーマに、家族の幸 せのために大切 なことを考え、自 ら進んで役に立 とうとする心情 を育てる授業で す。	具体事例や比較 カードを使い、 SNSの「楽しさ vs危険」を視 覚化。リスクを理 解し、安全な行 動選択をめざし ます。	手書きとデジ タル(テキスト データ)の違い に着目し、手書 力が持つ「伝 わる力」を知 り、適切な場 所で使えるよ う導きます。
コンテンツ							

この春、ミライシードに 新しい仲間が誕生しました!



たねはちは、これから先生方と一緒に
育っていくキャラクターです。
どうか、先生方のクラスでも
あたたかく迎えていただけたらうれしいです。



ミライシード
公式キャラクター
たねはち

どうして「たねはち」を誕生させたか

「どうすれば、もっと子どもたちが主体的に学べるだろう?」
この問いに向き合い、先生方から届く声や教室で見られる子どもたちの姿が
手ごたえに、私たちは議論を重ねてきました。その中で生まれた答えが、「
子どもに寄り添い、学びを応援する存在」を届けることでした。

「たねはち」に込めた思い

たねはちは、子どもたちが学びに向かう時の「学びの相棒」。「やってみよう」「
続けてみたい」といった前向きな気持ちや育つ瞬間に寄り添い、子ども
たちと一緒に成長していける存在であってほしいという願いを込めていま
す。

先生と一緒に、育てていくキャラクター

たねはちは、先生の「声かけ」を助ける役割も担っています。
「もう少しがんばってみよう!」「できたね!」「ここからまたやってみよう!」
先生が届けたい言葉を、たねはちがそっと重ねて伝えることで、学びの
時間が少し前向きに、楽しくなる——。そんな存在でありたいと考
えています。

詳しい「たねはち」の紹介や誕生記念
キャンペーンの詳細はこちら!

